

新年ご挨拶

誠に畏れ多きことながら、永遠の命であられ、天地万物一切の創造主であられる唯一の神・主神は、ご自身のご神格を明主様に付与されました

主神は、明主様の中で生きておられると同時に、私ども一人ひとりの中で、^{わけみたま}分霊として、^{まこと}実に、生きておられます。

主神は、^{まこと}真の命の親であられ、明主様にとってだけではなく、私どもにとっても、最も近く、最も大切な方であられます。

私どもの中には、永遠に生きておられる主神の息が存在しており、私どもは、私どもの中で今も生きておられる父母先祖の方々と共に、その命の息を嗣がせていただいているのであります。

私は、明主様に結ばれた世界中の信徒の皆様と共に、永遠の命の息を嗣ぐ、真の主神の子となるべく養い育てられております中で、輝かしい年の始めを迎えさせていただいたことに感謝しつつ、主神を心からお讃え申し上げ、謹んで新年のご挨拶をさせていただきたいと思えます。

新年あけましておめでとうございます。

さて、教団にとりまして、本年は立教80周年にあたります。

明主様は、昭和10年(1935年)元旦、「大日本観音会」を発会し、本教の立教を宣言されました。

そして、機関紙としての新聞「東方の光」と共に発刊された雑誌「光明世界」創刊号の「巻頭言」には、次のようなお言葉が記されております。

神は光にして光のあるところ 平和と幸福と歡喜あり
無明暗黒には 鬭争と欠乏と病あり
光と栄えを欲する者は来れ 来りて――
觀世音菩薩の御名を奉称せよ
さらば救はれん

明主様は、「光と栄えを欲する者は来れ」とお述べになり、私どもに対し、神のみもとに来なさい、と呼びかけてくださっております。

主神は、私どもの真の命の親であられますから、私どもの始まりは、主神が私どもを分霊として生んでくださったところ、すなわち、大いなる光明が燦然と輝く天国にあります。

私どもは、この天国という自らの始まりを、私どもの中に、今、持たせて

いただいているのであります。

私は、明主様のこの「来れ」というお言葉に改めて触れさせていただきますと、明主様が私どもに対し、“あなた方の始まりの天国において、わたしと共にいたこと、そして、すべてのものと共に主神にお仕えしていたことを思い出しなさい。あなた方は、この世において「無明暗黒」のような心の姿を担っていたけれども、赦され、救われたものとして、天国に帰って来なさい。あなた方を迎える準備はできているのだから、と、今、呼びかけてくださっているように思えてなりません。

立教後80年経った今、私どもは、明主様の「光と栄えを欲する者は来れ」という呼びかけを過去のものとするのではなく、今も絶えず呼びかけてくださっていると受けとめて、今この瞬間に、“父母先祖の方々と共に、また、天地万物一切のものと共に、天国に立ち返らせていただきます、”という意思表示をもって、明主様にお返事させていただきたいと思えます。

明主様は、この「巻頭言」を「観世音菩薩の御名を奉称せよ さらば救はれん」というお言葉をもって結んでおられます。

明主様は、昭和10年のご立教以来、「観世音菩薩（観音）」を始め、「弥勒（五六七、日月地、ミロク）」、あるいは、「メシア」という御名を大切にしてくられました。

そして、幾多の変遷と推移を経て、明主様は、昭和25年2月4日、「世界救世(メシヤ)教」を「開教」されました。

私ども信徒が「明主様」とお呼びし始めたのも、この時からであります。このお名前について、明主様は、「明主の言霊は、メシヤと五十歩、百歩だから、あるいはメシヤの名前になるかも知れないとも想っている」と述べておられます。

また、明主様は、当初お作りになった『善言讃詞』の冒頭の「世尊観世音菩薩此土に天降らせ給ひ光明如来と現じ 応身弥勒と化し」のあとに、「救世主^{メシヤ}とならせ」と書き加えられました。

「メシヤ」と題する一連のお歌もお詠みになり、その中に、「観音の衣をかなぐり捨て給ひメシヤと生るる大いなる時」というお歌があります。

このようにして、明主様は、観世音菩薩（観音）の本体がメシアであることをお示しく下さいました。

明主様にとりまして、「観世音菩薩」という御名は、今や、その本体である「メシア」という御名に包含されております。

私どもは今、明主様が昭和十年のご立教当初お述べになった「観世音菩薩の御名を奉称せよ さらば救はれん」とのお言葉を、「メシアの御名を奉称せよ さらば救はれん」と受けとめさせていただく必要があるのではないのでしょうか。

「メシア」という御名は、まことに尊い救いの御名であります。

私どもがこの世でどんな悩み苦しみの中にいようとも、この世のすべてを携えて天国に立ち返らせていただき、その立ち返った天国において、「メシア」という御名をお唱えさせていただけること、そのこと自体が、私どもにとって千載一遇の赦しであり、救いであると、明主様は、み教えくださっているのではないのでしょうか。

その明主様に従って、私は、新しい年を迎えた今、皆様とご一緒に、自らの中に輝く天国に立ち返らせていただき、その天国において、明主様と共にあるメシアの御名にあって、主神を心からお讃え申し上げたいと思います。

終わりに、私は、「メシア」という尊い救いの御名を知るに至りましたことを、明主様と共におられる主神に感謝申し上げますとともに、メシアの御名にある永遠の命の輝きと救いが、世界中の信徒の皆様を始め、全人類とその父母先祖の方々に、また、天地万物すべてに、あまねくありますようお祈りいたしております。

ありがとうございました。

以 上